

首都圏段戸会会報

平成23年4月 第27号

発行責任者 首都圏段戸会 会長 永田 宏
編集発行人 広報担当 磯尾 進

平成22年度総会・懇親会報告

高50回 鳥居福代



永田会長挨拶

明朗快活な永田会長の挨拶で始まった第38回の首都圏段戸会総会（10月30日（土）開催）は、台風の影響による悪天候にも拘らず、高校2回から62回生まで249名の会員のご参加により、今年も大盛況でした。
招聘恩師は、石川耕春先生、村井憲明先生、吉野功先生、青山伸一先生、石川邦利先生、岩瀬雄高先生、藤原波一先生の7名。先生方に会えるのを楽しみに集まった方も多く、どの先生も教え子に囲まれ、懐かしさでいっぱいのご様子でした。



高須勝行校長先生

本校同窓会の中根勝美会長は地元と東京の繋がりを、岡高の高須勝行校長は現在の岡高生の活躍ぶりをお話くださり、お二方のお話からは、同窓生たちが築いてきた歴史や人との絆を大切に思う思いが強く伝わってきました。
講演会では、天然物有機合成化学の世界の第一人者であり、2009年秋に紫綬褒章を受章された東京大学大学院薬学系研究科教授の福山透先生（高19回）が、「（やはり）人生は楽しむしかない！」と題して、ご自身のこれまでの歩みをお話くださいました。先生は「すごい人なのに気さくなお人柄」（村木央明（高19



恩師紹介

この温かな雰囲気さをさらに多くの方に楽しんでいただけたますように、次回も皆様のご参加を心からお待ちしております。

回）首都圏段戸会事務局長の紹介より）で、学生時代の数々のいたずらや楽しい思い出の話に、会場は絶えず笑い声に包まれていました。一方で、画家でいらしたお父様が作品にサインをされていたのと同様に、ご自身の仕事にも「名入れ」をする思いで取り組まれ、その「過程」を楽しまれるというお話や、「努力できるのは大切な資質」であると思いついたというお話からは、先生の独創的と評さ



講演会 福山 透さん

れる数々の業績を生み出した熱意や好奇心、並々ならぬご努力が伺えました。そして、米国での長い研究生活を終え日本に戻られた今、多くの仲間



「段戸華教室」の作品が会場を飾る

に囲まれて過ごすのが楽しいというお言葉に、人との絆を大切にされる思いを感じました。
総会に続く懇親会でも、「人とのつながり」の良さをしみじみと感じられた方が多かったのではないだろうか。懐かしい顔を見つけては互いに声を掛け合い、楽しい話は尽きません。世代を超えた新しい出会いも数多くありました。段戸華教室の優雅な作品や段戸音楽会の素敵な演奏が会場を包み、カクキューさんのご協力で会員有志が大豆栽培から手がけて

出来た美味しい米味噌は、お味噌汁として振舞われ、参加者の心も体も温めてくれました。
この温かな雰囲気さをさらに多くの方に楽しんでいただけたますように、次回も皆様のご参加を心からお待ちしております。

